

プロジェクト16 地域資源を活用したにぎわい拠点づくり



プロジェクトのねらい

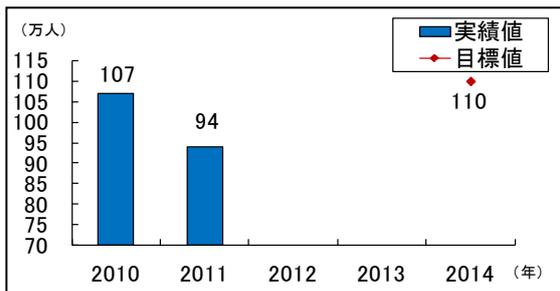
- ♪ 地域自らがにぎわい創出に取り組む観光の核づくり
- ♪ 地域の特徴ある資源を活用した地域の活性化

数値目標の達成状況

【新たな観光の核づくり】

◆ 城ヶ島における入込観光客数（暦年）

（神奈川県入込観光客調査）

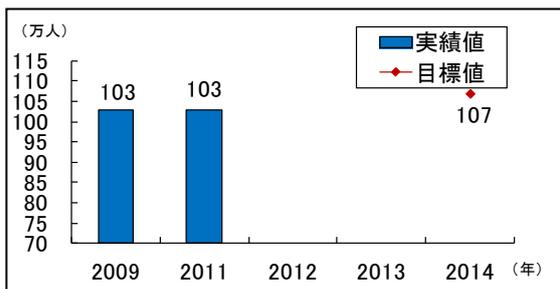


【2012年目標値】 【実績値】 【達成率】

- ・ 2012年の目標値が設定されていないため、達成状況をお示しできません。なお、2011年の実績値は、94万人となっています。

◆ 大山における入込観光客数（暦年）

（伊勢原市調査）



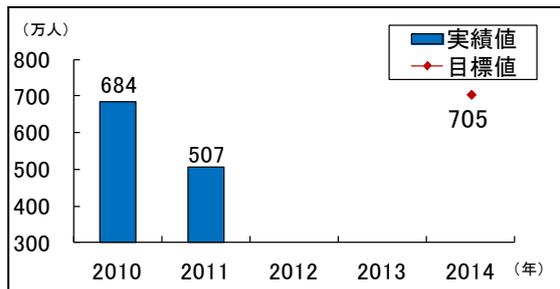
【2012年目標値】 【実績値】 【達成率】

- ・ 2012年の目標値が設定されていないため、達成状況をお示しできません。なお、2011年の実績値は、103万人となっています。

【地域活性化に向けた拠点づくり】

◆ 江の島における入込観光客数（暦年）

（神奈川県入込観光客調査）

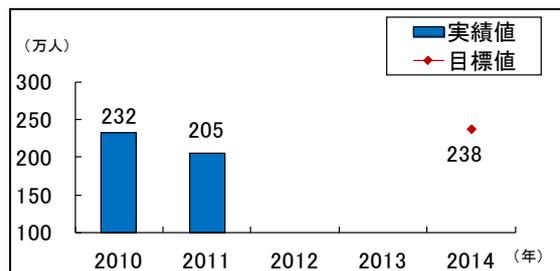


【2012年目標値】 【実績値】 【達成率】

- ・ 2012年の目標値が設定されていないため、達成状況をお示しできません。なお、2011年の実績値は、507万人となっています。

◆ 大涌谷における公共交通機関乗車数等

（箱根町調査）



【2012年目標値】 【実績値】 【達成率】

- ・ 2012年の目標値が設定されていないため、達成状況をお示しできません。なお、2011年の実績値は、205万人となっています。

2012年度の主な取組みと成果

① 新たな観光の核づくり

- ・ アドバイザリー委員会による提案募集、構想の認定、認定事業への支援など
 - 城ヶ島・三崎漁港周辺（2012年11月）、大山（2013年2月）、大磯（2013年2月）の計3地域を認定。
- ・ 城ヶ島・三崎漁港周辺地域
 - “ホテルになった村”構想と“統合医療”構想による「観光＋医療ツーリズム＋グリーンツーリズム」と産業観光による観光の核づくりの推進
 - 魅力あふれる城ヶ島の創造に向けたイベントなどの実施
 - 城ヶ島公園内の広場の魅力向上のための整備
- ・ 大山地域
 - 大山魅力再発見「平成大山講」プロジェクト～体感！悠久の歴史・安らぎの霊峰大山～の推進
 - 国指定重要文化財である宝城坊（日向薬師）本堂の保存修理事業に対する助成
 - 観光地大山へのアクセス強化を図る大山バイパスの整備推進
 - 「大山山麓・食の文化祭」の開催や地場産品を活用した新メニューの提供
- ・ 大磯地域
 - 三つの舞台を中心にニューツーリズムによる日本一の保養地再生の推進
 - 県立大磯城山公園拡大区域の整備事業の実施及び町が行う旧吉田茂邸再建への支援
 - 湘南邸園文化祭関連事業の実施
 - 大磯港活性化整備計画に基づく事業の推進

② 地域活性化に向けた拠点づくり

- ・ 湘南江の島の魅力アップ
 - 湘南港ヨットハウス（港湾管理事務所）の建替え（県）
 - 島内の渋滞対策手法の検討（県）
 - 観光ガイドマップ（改訂版）への広域避難場所の明記（藤沢市）
- ・ 大涌谷の新たな魅力づくり
 - （仮称）箱根火山学習センター新設の設計に係る支援、歩道整備にかかる調査・設計（県）
 - 箱根ジオパークが日本ジオパーク認定を受け、大涌谷におけるジオサイトとしての魅力アップの取組みの支援

県民ニーズの動向

「自然や歴史・文化、景観など地域の特性を生かしたまちづくりが行われること」を重要だと思う人の割合（県民重要度） ⇒ 64.1%

その他社会環境を表す指標

◆ 地元への愛着と旅行のおすすめ度

（㈱リクルート旅行カンパニー ジャらんりサーチセンター ご当地調査 2010年3月30日）

■ 地元への愛着を感じるか			■ 地元のおすすめ度		
順位	都道府県	%	順位	都道府県	%
1	沖縄県	65.0	1	北海道	60.6
2	北海道	62.6	2	沖縄県	56.3
3	京都府	57.4	3	長野県	53.5
4	福岡県	54.0	4	長崎県	53.5
5	宮城県	53.5	5	熊本県	48.5
6	鹿児島県	50.5	6	鹿児島県	47.5
7	滋賀県	50.0	(以下、中略)		
8	大阪府	46.0	35	兵庫県	31.7
9	神奈川県	45.0	36	滋賀県	30.6
10	兵庫県	42.6	37	神奈川県	28.0

※「とても愛着を感じる」の割合 ※「ぜひ来てほしい」の割合
回答者数：100人（神奈川県）、4,681人（全国）

- ・ 神奈川県は、地元への愛着度は高いものの、旅行先としてのおすすめ度は低い傾向にあります。
- ・ このことから、地元への高い愛着度を生かしながら、旅行先としてもおすすめできるような、地域の特性を生かした魅力的な拠点づくりを進めていくことが必要です。

主な取組みや統計データに関する情報

- ・ 新たな観光の核づくり認定事業
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f417815/>
- ・ 新たな観光の核づくりアドバイザー委員会
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f417816/>
- ・ 入込観光客調査
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f80022/p27746.html>
- ・ 大山魅力再発見「平成大山講」プロジェクト
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f7631/p656520.html>
- ・ 湘南江の島の魅力アップ
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f7631/p484956.html>
- ・ 箱根ジオパーク誕生！～日本ジオパークに認定されました～
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f380028/>

総合分析

プロジェクト全体としては、概ね順調に進んでいます。

- ・ 城ヶ島・大山・江の島における入込観光客数、大涌谷における公共交通機関乗車数等は、2012年の目標値が設定されていません。
- ・ 東日本大震災などの影響により、2011年の城ヶ島・江の島における入込観光客数や大涌谷における公共交通機関乗車数等は減少しています。
- ・ 新たな観光の核づくりでは、城ヶ島・三崎漁港周辺、大山、大磯の各地域を認定しました。
- ・ 箱根大涌谷園地整備が着実に進んでいるとともに、箱根ジオパークが日本ジオパークに認定されました。
- ・ 湘南港ヨットハウスなど、拠点に関連する基盤整備などは着実に進んでいます。
- ・ 地域の魅力づくりに向けたイベントが開催されるなど、自主的な取組みが進み、機運が高まっています。

⇒ 新たな観光の核づくりをめざした3地域の認定や、地域の魅力づくりに向けた自主的な取組みが進むなど、プロジェクトは概ね順調に進んでいます。

今後の課題と対応方向

🍌 地域自らがにぎわい創出に取り組む観光の核づくり

- ・ 第4の国際観光地の実現に向け、認定した構想の着実な推進が課題
→ 様々な機会を活用したPRや、地元の推進組織への参画など、核づくりに向けた取組みを積極的に支援

🍌 地域活性化に向けた拠点づくり

- ・ 拠点としての利便性の向上や、おもてなしの向上などを通じた魅力アップが課題
→ 利便性の向上について引き続き着実に推進
→ 観光客来訪の促進に向けた受入れ体制の整備

総合計画審議会の二次評価



概ね順調に進んでいます

- ・ 2014年の数値目標を達成できるよう、地域資源を活用したにぎわい拠点づくりの取組みが一層進められるよう期待します。

プロジェクト17 行ってみたい神奈川の観光魅力づくり

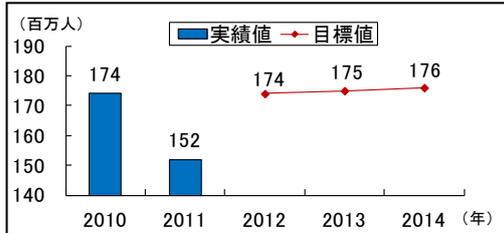


プロジェクトのねらい

- 👉 観光客や観光消費額の増加による地域活性化
- 👉 商店街やまちの魅力の向上

数値目標の達成状況

◆ 神奈川を訪問する入込観光客数（暦年）（神奈川県入込観光客調査）

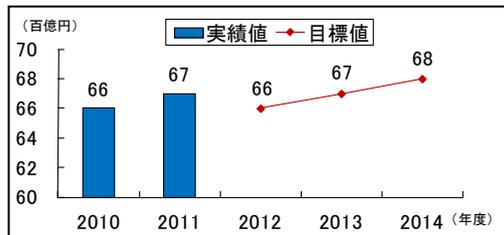


【2012年目標値】 【実績値】 【達成率】

174百万人 ⇨ - -

- ・ 2012年の実績値は2013年6月に把握予定で
- ・ なお、2011年は東日本大震災の影響により、152百万人に減少しています。

◆ 観光客が県内で消費する観光消費額（神奈川県観光客消費動向等分析調査）



【2012年目標値】 【実績値】 【達成率】

66百億円 ⇨ - -

- ・ 2012年の実績値は2013年6月に把握予定で
- ・ なお、2011年の実績値は2010年を上回り、6,700億円となっています。

◆ 商業・商店街活性化に自ら取り組む団体数（累計）（商業流通課調査）



【2012年目標値】 【実績値】 【達成率】

80団体 ⇨ 90団体 112.5%

- ・ 2012年の達成率は112.5%となっています。
- ・ これは、県が若手商業人材の育成に取り組んできた成果が現れつつあることによるものです。

2012年度の主な取組みと成果

① 観光客の誘客促進

- ・ 地域の観光魅力の向上や旅行商品化の促進
 - 地域資源を活用した着地型旅行商品（旅行者を受け入れる地域側が企画する旅行商品）開発講座の開催（2会場）
- ・ 観光情報の発信や観光客の受け入れ体制整備
 - 外国語版観光ホームページのスマートフォン対応による情報発信の充実
- ・ 「武家の古都・鎌倉」の世界遺産登録の推進と魅力発信
 - イコモス調査への対応と4か国語ガイドブックの発行ほか、各種事業の展開
- ・ 箱根ジオパークの推進
 - 日本ジオパーク認定及びジオツアーや普及啓発のための各種イベントの実施

② 観光まちづくり人材の育成や観光関連産業の活性化

- ・ 観光まちづくりを担う人材の育成
 - 地域の魅力づくりを担う人材を育成する「観光まちづくり塾」の開催（13回、受講者13人）、県内4大学との連携による「かながわ移動観光大学」（4地域）や「かながわ観光大学シンポジウム」の開催
- ・ 観光キャンペーンの実施やかながわ製品の販路拡大
 - かながわ再発見キャンペーンの実施と観光物産展への出展（県内7回、県外5回）

③ 商店街を核とした地域の魅力づくり

- ・ 商店街の取組みへの支援と人材育成
 - 商店街の活性化を意欲的に進める商店街の地域ブランドづくりへの支援（3件）

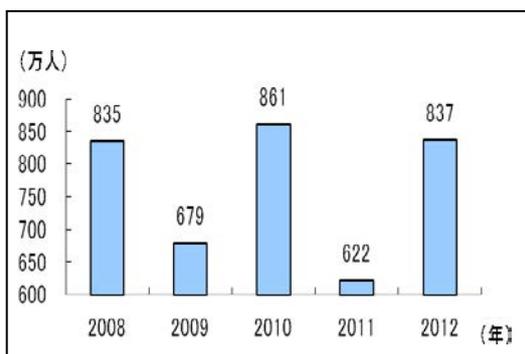
県民ニーズの動向

「神奈川県は、歴史や文化、自然など、地域ごとに特色があり ⇒ 88.3%
魅力的な県だ」と思う人の割合

「地域の人々の交流の場となるような、にぎわいのある商店街が ⇒ 44.0%
身近にあること」に満足していない人の割合（県民満足度）

その他社会環境を表す指標

◆ 訪日外客数（日本政府観光局（JNTO）調査）



・ 近年の訪日外客数（外国人旅行者数等）は、2008年まで概ね順調に推移してきましたが、2009年には世界的な景気低迷や新型インフルエンザの感染拡大等により、大きく減少しました。翌2010年には過去最高の861万人を記録したものの、2011年は東日本大震災の発生により、622万人まで落ち込みました。その後、2012年は東日本大震災前の水準までほぼ回復してきています。

・ これにより、観光客数は、社会情勢や経済状況の変化に大きな影響を受けやすいことがわかります。

主な取組みや統計データに関する指標

- ・ 観光立県かながわWEB
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f80022/>
- ・ 神奈川県観光協会 神奈川県観光情報サイト「観光かながわNOW」
<http://www.kanagawa-kankou.or.jp/index.php>
- ・ 平成24年度神奈川県地域商業ブランド確立総合支援事業の採択結果
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f420063>
- ・ 観光庁 統計情報
<http://www.mlit.go.jp/kankocho/siryou/toukei/>
- ・ 日本政府観光局（JNTO） 訪日外客の動向
http://www.jnto.go.jp/jpn/reference/tourism_data/visitor_trends/index.html

総合分析

プロジェクト全体としては、概ね順調に進んでいます。

- ・ 商業・商店街活性化に自ら取り組む団体数は、目標を達成しました。
- ・ 観光客の誘客促進などの取組みは着実に進められています。
- ・ 県には多彩な地域資源があり、魅力に満ちていると思う県民の割合は高い状況です。
- ・ 若手商業人材の育成の効果から、県内商店街活性化への取組みが進みつつありますが、県民満足度は、依然として低い状況にあります。
- ・ 訪日外客数は、東日本大震災前の水準にほぼ回復しています。

⇒ 数値目標の達成状況は3項目中2項目で未把握ですが、観光情報の発信など、観光客の誘致促進に向けた取組みが着実に進められており、プロジェクトは概ね順調に進んでいます。

今後の課題と対応方向

👉 観光客や観光消費額の増加による地域活性化

- ・ 外国人観光客のさらなる誘客が課題
→ 市場動向やニーズを捉えた観光プロモーションにより外国人観光客を誘客
- ・ 滞在型観光の促進が課題
→ 県内の周遊性を高め、滞在日数や観光消費額を増やすための取組みの強化
- ・ 箱根ジオパークのさらなる認知度向上へ向けた取組みの強化が課題
→ イベントの開催や各ジオサイトの解説板の設置などを実施

👉 商店街やまちの魅力の向上

- ・ 商店街の自主的な取組みによる魅力づくりが課題
→ 引き続き、地域ブランドづくりに取り組む商店街を支援
→ 若手商業者の育成・ネットワーク化に取り組む、商店街観光ツアーを実施
- ・ 観光まちづくりの促進が課題
→ 地域主体の取組み及び地域の魅力づくりをリードする人材を支援

総合計画審議会の二次評価



概ね順調に進んでいます

- ・ 商店街の活性化に向けて、若手商業者の人材育成などにさらに取り組む必要があります。

プロジェクト18 文化芸術による心豊かな神奈川づくり

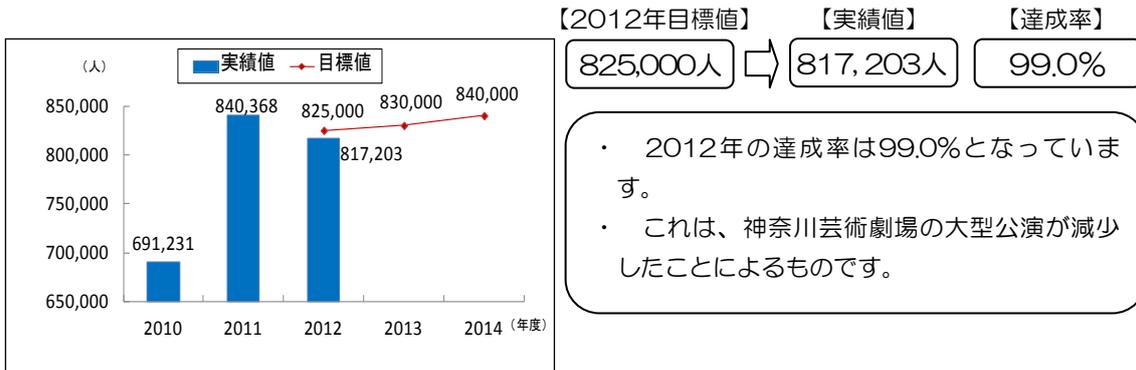


プロジェクトのねらい

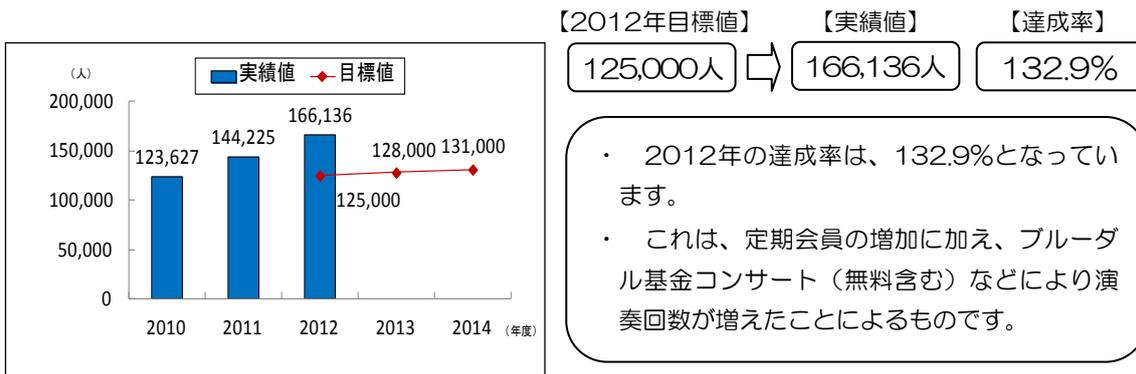
- 🎵 文化芸術を活かした地域活性化
- 🎵 身近で文化芸術に親しむ機会の拡充

数値目標の達成状況

◆ 神奈川芸術劇場及び神奈川県民ホールの利用者数 (文化課調査)



◆ 神奈川フィルハーモニー管弦楽団の県内演奏会の入場者数 (文化課調査)



2012年度の主な取組みと成果

① 文化芸術によるにぎわいの創出

- ・ 文化芸術の創造・発信と鑑賞機会の提供
 - 県立文化施設等での公演、展覧会などの鑑賞機会の提供
- ・ 魅力とにぎわいのある地域創出モデルづくり
 - 文化芸術による、まちの賑わいづくり「マグカル(マグネット・カルチャーの略)」事業の一環として、ポータルサイト、フェイスブックを開設し、公演やイベント情報などを発信
 - 街のにぎわいづくりのためのアートサーカスの公演など

② 地域における文化芸術活動への支援

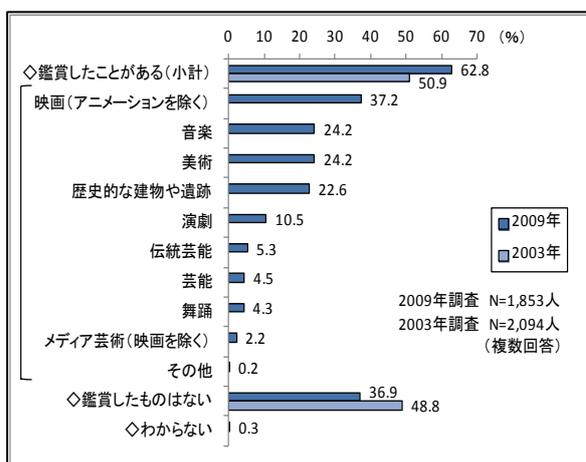
- ・ 地域に密着した文化芸術活動団体への支援
 - 県民の音楽鑑賞機会の充実を図るとともに、公益財団法人への移行を支援するため、神奈川フィルハーモニー管弦楽団へ助成
 - 文化活動団体等の実施する文化芸術活動に対し助成（28団体）
- ・ 伝統芸能を継承する人材の育成支援、民俗文化財の保存と活用
 - 相模人形芝居や日本舞踊の伝統芸能ワークショップの開催（8回）
 - 国県指定文化財の保存修理等補助（11件）

県民ニーズの動向

「文化や芸術を鑑賞したり、活動に参加できる場が身近に整っていること」を重要だと思う人の割合（県民重要度） ⇒ 48.3%

その他社会環境を表す指標

- ◆ この1年間に、ホール・劇場、映画館、美術館・博物館などに出向いて直接鑑賞した文化芸術は何か （内閣府「文化に関する世論調査」より作成）



- ・ 調査時点（2009年11月）の直近1年間に、ホールや劇場、美術館・博物館などに出向いて文化芸術を直接鑑賞したことがある人は62.8%となっています。
- ・ 2003年11月の前回調査と比較すると、「鑑賞したことがある」とする人の割合が上昇（50.9%→62.8%）し、「鑑賞したものは無い」と答えた人の割合が低下（48.8%→36.9%）しており、日常生活の中で文化芸術に触れ、心豊かなくらしを実現しようとする意識が浸透していることがわかります。

主な取り組みや統計データに関する情報

- ・ 神奈川県文化芸術振興（文化芸術振興条例・文化芸術振興計画）
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f6032/>
- ・ MAGCUL.NET（マグカル・ドットネット）（神奈川発、文化発信ポータルサイト）
<http://magcul.net/>
- ・ 公益財団法人 神奈川芸術文化財団
<http://www.kanagawa-arts.or.jp/>
- ・ 我が国の文化政策（文化庁）
http://www.bunka.go.jp/bunka_gyousei/index.html
- ・ 文化に関する世論調査（内閣府）
<http://www8.cao.go.jp/survey/h21/h21-bunka/>

総合分析

プロジェクト全体としては、概ね順調に進んでいます。

- ・ 神奈川芸術劇場及び神奈川県民ホールの利用者数は、目標値をやや下回りました。
- ・ 神奈川フィルハーモニー管弦楽団の県内演奏会の入場者数は、目標を達成しました。
- ・ 文化芸術によるにぎわいの創出と地域における文化芸術活動への支援は、着実に進められています。
- ・ 文化芸術の鑑賞・活動の重要性には一定の認識があり、日常生活の中で文化芸術に触れ、心豊かな暮らしを実現しようとする意識が浸透しています。

⇒ 数値目標は2項目中1項目で達成しており、神奈川芸術劇場及び神奈川県民ホールの利用者数もほぼ数値目標を達成するなど、プロジェクトは概ね順調に進んでいます。

今後の課題と対応方向

🎭 文化芸術を活かした地域活性化

- ・ 文化芸術を活かしたまちのにぎわいづくりが課題
 - 歴史的建造物、屋外空間などを利用したマグカル事業の取組みを通年のにぎわいづくりに活用
 - 創作ミュージカル、伝統芸能などの新たな取組みを県内各地域のにぎわいづくりに活用

🎭 身近で文化芸術に親しむ機会の拡充

- ・ 優れた文化芸術の提供の幅広いPRが課題
 - ポータルサイトやフェイスブックを活用した効果的なPRの取組みを推進

総合計画審議会の二次評価



概ね順調に進んでいます。

- ・ 地域が支える芸術活動への支援をさらに進めるよう検討する必要があります。

プロジェクト19 NPOの自立的活動と協働の推進

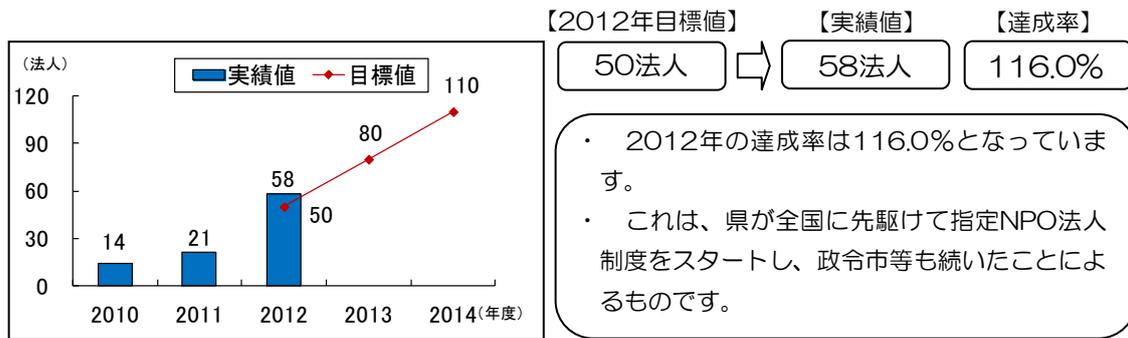
民 全部局

プロジェクトのねらい

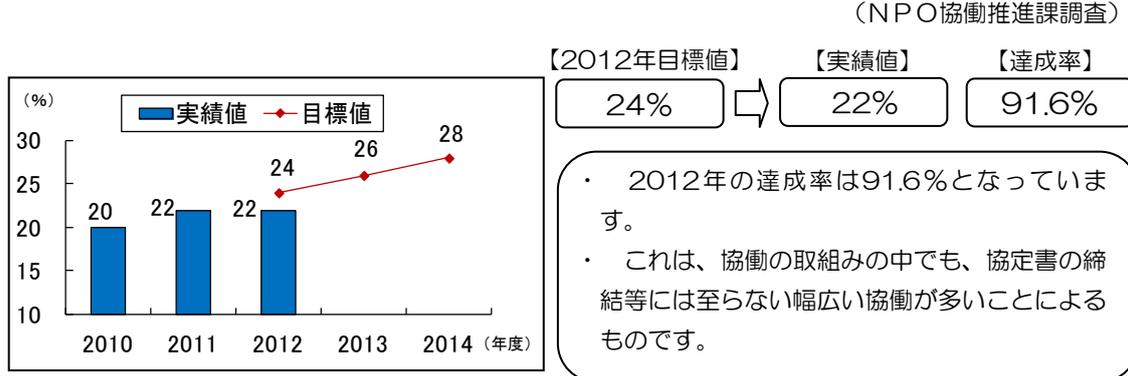
- 👉 多様な主体による協働型社会の実現
- 👉 NPOに対する寄附文化の醸成

数値目標の達成状況

◆ 寄附者が税制上の優遇を受けられるNPO法人数（累計） （NPO協働推進課調査）



◆ 協定締結・相互評価などを実施したNPOと県との協働の取組みの割合 （NPO協働推進課調査）



2012年度の主な取組みと成果

① ボランティア活動の充実に向けた支援

- ・ 県指定NPO法人制度の実施
 - 寄附者が個人県民税の税制優遇を受けられるNPO法人の指定（21法人）
- ・ NPO活動を支える人材の育成
 - かながわコミュニティカレッジでの講座実施（34講座）

② 多様な主体による新たな協働の推進

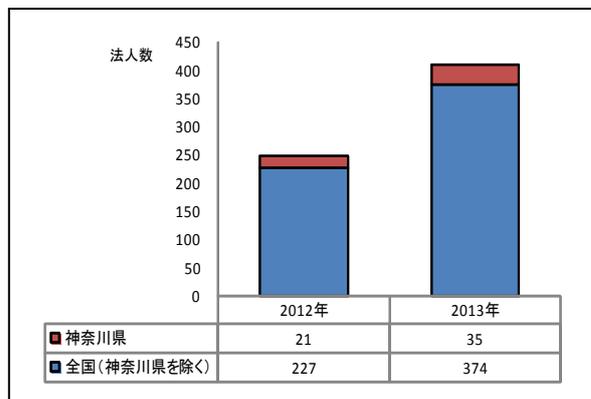
- ・ NPOを中心とする多様な主体と県との協働
 - NPO等と県が協働して地域課題の解決に当たる「神奈川県新しい公共の場づくりのためのモデル事業」を実施（5事業）
- ・ NPOと企業などの交流と協働の促進
 - 企業とNPOのパートナーシップ支援事業の実施（マッチング件数11件）

県民ニーズの動向

「ボランティア活動（ボランティアやNPO活動）の場や参加する機会が充実していること」を重要だと思う人の割合（県民 ⇒ 40.3% 重要度）

その他社会環境を表す指標

◆ 認定・仮認定NPO法人数等 （内閣府からの提供データより）



- ・ 寄附をすると税制優遇を受けられる認定・仮認定NPO法人の数が1年間で、全国では161法人増えており、うち神奈川県では14法人増えています。
- ・ このように、認定・仮認定NPO法人の数は全国及び神奈川県内で着実に増えていることが分かります。

主な取組みや統計データに関する情報

- ・ 認定・仮認定・指定NPO法人の一覧
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f370165/p530985.html>
- ・ 企業とNPOのパートナーシップ支援事業
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f6188/>
- ・ かながわ県民活動サポートセンター
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f100216/>
- ・ かながわコミュニティ・カレッジ
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f100303/>
- ・ 内閣府NPOホームページ
<https://www.npo-homepage.go.jp/index.html>

総合分析

プロジェクト全体としては、概ね順調に進んでいます。

- ・ 寄附者が税制上の優遇を受けられるNPO法人数については目標を達成しました。
- ・ 県や政令市などで指定NPO法人制度がスタートし寄附環境が充実してきており、NPO活動を支える人材育成やNPOと企業との幅広い協働は着実に進んでいます。
- ・ NPOと県との協働の取組みの割合については目標値を下回りましたが、前年度と同じ水準を保っています。
- ・ ボランティア活動（ボランティアやNPO活動）の場や参加する機会が充実していることを重要だと思ふ人の割合は、増加傾向にあります。

⇒ 数値目標は2項目中1項目で達成しており、NPOと企業との幅広い協働が進むなど、プロジェクトは概ね順調に進んでいます。

今後の課題と対応方向

④ 多様な主体による協働型社会の実現

- ・ NPOの継続的な活動を支える仕組みづくりが課題
→ NPOが自立的かつ安定的に活動をすることができるよう、活動基盤強化のための支援を開始
- ・ NPOと企業だけでなく、多様な主体の参加による協働の促進が課題
→ 企業とNPOのパートナーシップ支援事業を拡充し、対象を大学など企業以外にも拡大

④ NPOに対する寄附文化の醸成

- ・ 寄附者が税制優遇を受けられるNPO法人のより一層の拡大が課題
→ 引き続き、県指定NPO法人制度や認定・仮認定NPO法人制度の情報提供を実施

総合計画審議会の二次評価



概ね順調に進んでいます

- ・ 社会的サービスの担い手として、NPO以外の法人の参画の増加に対応するため、社会的企業や大学などの多様な担い手による協働の推進に取り組む必要があります。
- ・ 寄附文化の醸成に加え、NPOの安定的な財政基盤強化の支援を進める必要があります。

プロジェクト20 「水のさと かながわ」づくり

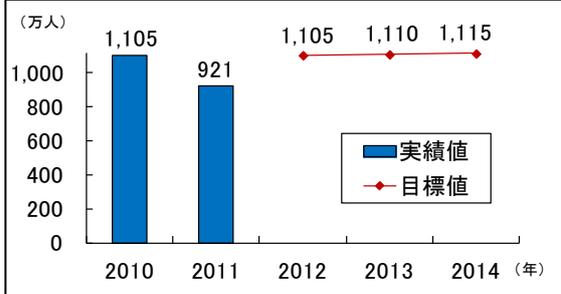


プロジェクトのねらい

- 水の恵みによる豊かな地域づくり
- 豊かな水を育む水源環境づくり

数値目標の達成状況

◆ 水に着目した観光スポットの入込観光客数（暦年） （神奈川県入込観光客調査）

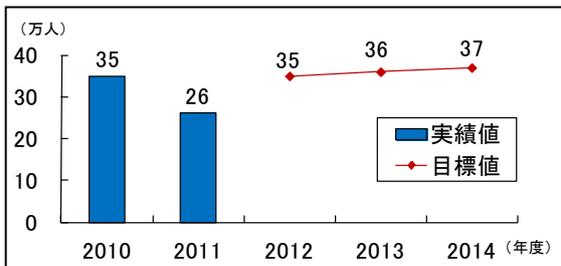


【2012年目標値】 【実績値】 【達成率】

1,105万人 ⇨ - -

- 2012年の実績値は2013年6月に把握予定です。
- なお、2011年の実績値は、東日本大震災の影響により921万人に落ち込んでいます。

◆ 水源地域のイベントなどへの参加者数 （水源地域交流の里づくり推進協議会調査）

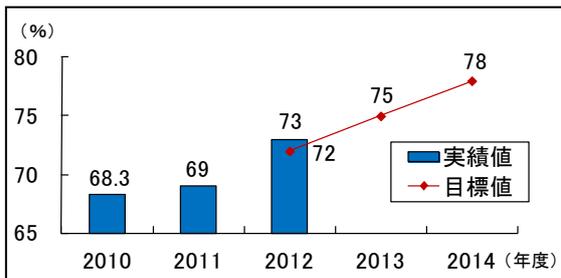


【2012年目標値】 【実績値】 【達成率】

35万人 ⇨ - -

- 2012年の実績値は2013年6月に把握予定です。
- なお、2011年の実績値は、東日本大震災の影響により26万人に落ち込んでいます。

◆ 水源の森林エリア内の私有林で適切に管理されている森林の面積の割合 （自然環境保全センター調査）



【2012年目標値】 【実績値】 【達成率】

72% ⇨ 73% 101.3%

- 2012年の達成率は101.3%となっています。
- これは、森林所有者との森林整備のための協定等の締結が計画的に進み、適切に管理されている森林が着実に増えていることを示しています。

2012年度の主な取組みと成果

① 水を育み、守る取組みの推進

- 水源地域の住民と都市地域の住民の交流促進や水の魅力の発信
 - キックオフ・シンポジウムの開催（参加者367人）
 - 水源地域の活性化のためのイベントの開催
- 水に関する体験活動や環境教育などの推進
 - 小網代の森の木道の整備（約500m）
 - 小学校高学年を対象とした水道教室などの実施（参加者2,023人）

② 水を活かす取組みの推進

- ・ 水の観光の促進
 - 「水の観光」キャンペーンでのツアー（参加者200人）などの実施
- ・ 新たな水商品の開発やかながわ方式による水ビジネスの推進
 - 箱根地区水道事業包括委託の事業者選定に向けた取組み
- ・ 観光スポットや親水空間などの整備
 - 境川遊水地公園の整備、酒匂川における親水護岸の整備

③ 水源の保全・再生

- ・ 神奈川の水源地環境の保全・再生
 - 水源の森林エリア内の私有林の公的管理・支援の実施など

県民ニーズの動向

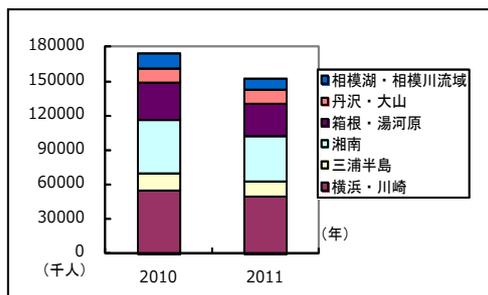
「身近に親しめる緑や水辺があること」を重要だと思う人の割合（県民重要度） ⇒ 79.1%

「水源地の森林が守られ、良質な水が安定して供給されていること」を重要だと思う人の割合（県民重要度） ⇒ 93.8%

「森林などの水源地環境は、県民が特別の負担をしても積極的に守っていくべきだ」と思う人の割合 ⇒ 79.2%

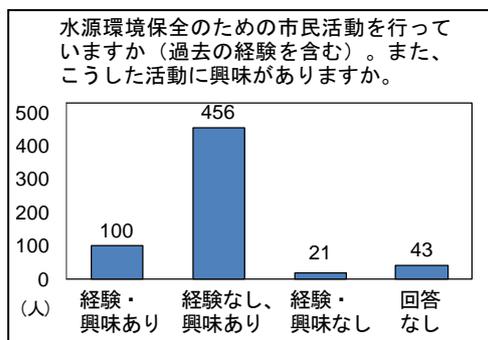
その他社会環境を表す指標

◆ 神奈川を訪れた延べ観光客数（暦年）（神奈川県入込観光客調査）



- ・ 2012年の実績値は2013年6月に把握予定で
- ・ なお、2011年の実績値は、東日本大震災の影響により151,967千人に落ち込んでいます。

◆ 水源環境保全のための市民活動（2012年10月23日に新都市プラザ（横浜市）で開催した水源環境保全・再生に取り組む市民団体活動展におけるアンケート結果）



- ・ アンケート回答者（620名）のうち、水源環境保全のための市民活動に関して、これまでに経験はないものの、活動に興味を持っていると回答した方の割合が、7割以上を占めています。

主な取組みや統計データに関する情報

- ・ 「水のさと かながわ」づくり ホームページ
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f417343/>
- ・ かながわの水源地環境の保全・再生をめざして
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f7006/>

総合分析

プロジェクト全体としては、概ね順調に進んでいます。

- ・ 水源の森林エリア内の私有林で適切に管理されている森林の面積の割合は目標を達成し、水源の保全・再生の取組みは着実に進んでいます。
- ・ 水源地域のイベントなどへの参加者数は、天候不順の影響もあり、目標値には届かない見込みですが、東日本大震災の影響から回復しつつあります。
- ・ シンポジウムや水の観光キャンペーンなど水の魅力に係る情報発信による「水のさとかながわ」のイメージづくりや、水に関する体験活動や環境教育などの取組みも着実に進んでいます。
- ・ 水源環境の保全と良質な水の供給を重要だと考える県民の割合は高い状況です。

⇒ 数値目標の達成状況は3項目中2項目で未把握ですが、シンポジウムや水の観光キャンペーンなど水の魅力にかかる情報発信などを着実に進めており、プロジェクトは概ね順調に進んでいます。

今後の課題と対応方向

♪ 水の恵みによる豊かな地域づくり

- ・ 「水のさと かながわ」の魅力の浸透とさらなる誘客が課題
→ 神奈川の森・川・海に連なる様々な水の魅力の県外への情報発信の強化や具体的なイベントによる誘客の促進

♪ 豊かな水を育む水源環境づくり

- ・ シカの採食による水源地域の森林整備効果の低減への対応が課題
→ シカの管理捕獲と連携して森林を整備することによる整備効果の発揮

総合計画審議会の二次評価



概ね順調に進んでいます

- ・ 豊かな水に恵まれた神奈川の美しい自然を、県民自らが再認識し、保全・再生する取組みとともに周知する取組みを今後も進めていく必要があります。

プロジェクト21 神奈川の自然環境の保全と活用

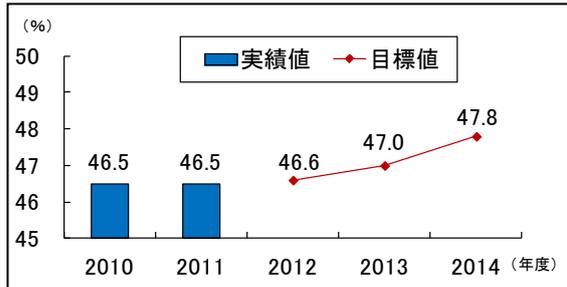
環 土

プロジェクトのねらい

- ♪ やすらぎやうるおいあるみどりの保全と活用
- ♪ 荒廃しているみどりの回復
- ♪ 都市部におけるみどりの創出

数値目標の達成状況

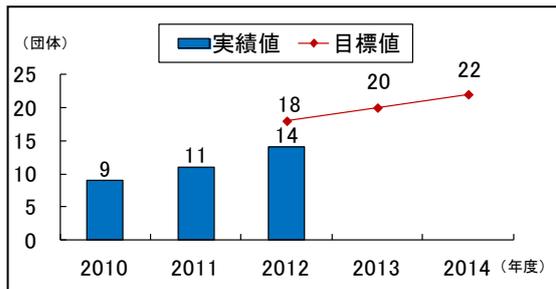
◆ 県内のみどり（緑地）の面積の割合※ （自然環境保全課調査）



【2012年目標値】	【実績値】	【達成率】
46.6%	—	—

- ・ 2012年の実績値は2014年1月に把握予定です。
- ・ なお、2011年の実績値は、46.5%で前年と同率となっています。

◆ 里地里山の保全に取り組む団体の数（累計） （農地保全課調査）



【2012年目標値】	【実績値】	【達成率】
18団体	14団体	77.7%

- ・ 2012年の達成率は77.7%となっています。
- ・ これは、地域の合意形成に時間を要したことによるものです。

2012年度の主な取り組みと成果

① 丹沢大山の自然再生と活用

- ・ 土壌流出対策など自然再生施策の推進
 - 植生等の状況に合わせた効果的な土壌流出防止対策の実施（約18ha）
- ・ ニホンジカの保護管理の実施
 - ニホンジカ管理捕獲事業（植生回復）の実施（381頭捕獲）
- ・ 登山道整備や適正利用に向けた普及啓発
 - 活動団体との連携による登山道整備の実施（3路線、補修活動16回）

② 里地里山の保全と活用

- ・ 里地里山の保全活動への支援や普及啓発活動の実施
 - 地域選定（1地区）と団体認定（3団体）の実施、保全活動の支援（14団体）

※「県内のみどり」：自然環境保全地域や都市公園など、法令等により将来保全される可能性が高い緑地

③ 都市のみどりの保全と活用

- ・ 都市部の緑地や小網代の森の保全と活用の推進
 - 都市部の緑地買入（8地区）と防災等工事、小網代の森の木道設置など
- ・ 県立都市公園の整備推進や国営公園の誘致
 - 県立都市公園等の整備（27公園）、三浦半島地域への国営公園誘致活動の実施

県民ニーズの動向

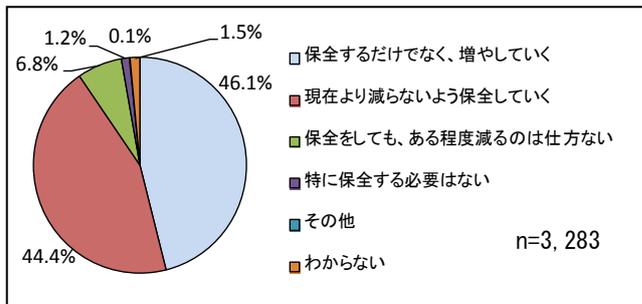
「森林などの水源環境は、県民が特別の負担をしても積極的に守っていくべきだ」と思う人の割合 ⇒ 79.2%

「身近に親しめる緑や水辺があること」を重要だと思う人の割合（県民重要度） ⇒ 79.1%

その他社会環境を表す指標

◆ 緑地に関する意見

（内閣府「平成22年度大都市圏に関する世論調査」）



- ・ 2010年7月の世論調査において、「大都市圏の緑地についてどうあるべきか」を調査したところ、全体の46.1%が「保全だけでなく、増やしていく」という意見になっています。

主な取組みや統計データに関する情報

- ・ 丹沢大山の保全・再生対策（県事業）
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f7006/p23431.html>
- ・ 特定鳥獣保護管理計画
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f986/p10114.html>
- ・ かながわの里地里山
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f300562/>
- ・ かながわのみどりの保全
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f10578/>
- ・ かながわの都市公園
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f6599/>
- ・ 三浦半島に国営公園を
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f6598/>
- ・ かながわ環境白書－わたしたちの環境－
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f12144/>

総合分析

プロジェクト全体としては、やや遅れています。

- ・ 里地里山の保全等に取り組む団体数は目標値を下回りましたが、着実に増加しています。
- ・ 丹沢大山の自然再生施策や二ホンジカの保護管理を実施するとともに、県民連携による登山道整備の取組みが進められています。
- ・ 身近に親しめる緑や水辺があることが重要であり、特別の負担をしても積極的に守っていくべきと考える人の割合や、自然環境の保全に対する関心も高まってきています。特に都市近郊の自然環境の保全に力を入れるべきと考えている人が多くなっています。

⇒ 数値目標の達成状況は2項目中1項目で未把握ですが、里地里山の保全等に取り組む団体数が目標を下回り、自然環境に対する県民の関心が高いことがうかがえるものの、プロジェクトはやや遅れています。

今後の課題と対応方向

♪ やすらぎやうるおいあるみどりの保全と活用

- ・ 丹沢大山において集中的に利用されている特定の登山道に対する対策や自然公園の適正利用に向けた普及啓発が課題
 - 県民連携による登山道整備と利用マナーの普及啓発の促進

♪ 荒廃しているみどりの回復

- ・ 二ホンジカの高密度化等による丹沢大山の自然環境の継続的な劣化への対応などが課題
 - 二ホンジカ捕獲のさらなる強化など保護管理事業の推進
 - 土壌流出対策、ブナ林等自然林の再生技術の開発など、丹沢大山の自然再生施策の着実な実施
- ・ 里地里山の保全に取り組む地域の円滑な合意形成が課題
 - 里地里山体験学校や活動団体間の交流を通じて、県民や地域住民へ、里地里山の重要性や保全活動への理解促進を図るとともに、市町村との連携により団体を育成

♪ 都市部におけるみどりの創出

- ・ 将来にわたり保全されるみどりの確保が課題
 - 市町村と連携し、法令等による緑地の指定を引き続き推進
 - 県立都市公園の整備や三浦半島国営公園の誘致などを引き続き推進
- ・ 都市部のみどりの質の維持・回復が課題
 - 緑地の維持管理の重要性の周知
 - 小網代の森の2014年度一般開放に向けた着実な施設整備

総合計画審議会の二次評価



やや遅れています

- ・ 丹沢大山や都市部のみどりなど、それぞれの特性に応じた効果的な取組みを進める必要があります。

プロジェクト22 持続可能な環境配慮型社会づくり

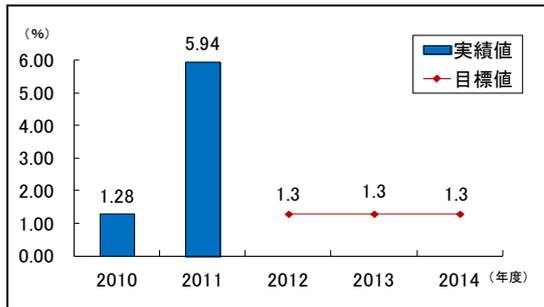


プロジェクトのねらい

- 誰かが環境に配慮して行動する社会の実現
- 地球温暖化対策の推進による温室効果ガスの削減
- 廃棄物の減少などによる環境負荷の低減と資源の消費抑制

数値目標の達成状況

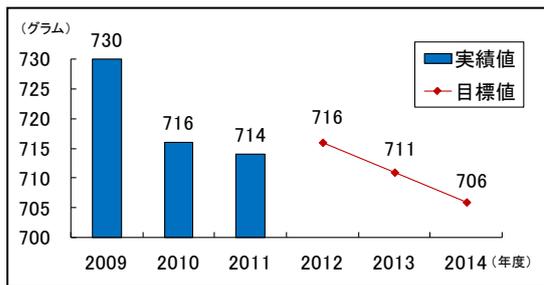
◆ 大規模排出事業者から排出される二酸化炭素の前年度比削減率 (環境計画課調査)



【2012年目標値】	【実績値】	【達成率】
1.3%	—	—

- 2012年の実績値は2013年12月に把握予定です。
- なお、2011年の実績値は、前年比で5.94%の削減となっています。

◆ 生活系ごみ一人一日当たりの排出量 (資源循環課調査)



【2012年目標値】	【実績値】	【達成率】
716グラム	—	—

- 2012年の実績値は2014年3月に把握予定です。
- なお、2011年の実績値は、前年比で2グラム減となっています。

2012年度の主な取組みと成果

① 地球温暖化対策の推進

- 事業活動・建築物・特定開発温暖化対策計画書制度による温暖化対策の推進
 - 計画書の届出等 (事業活動: 518事業者、建築物94件、特定開発12件)
- NPOなどと連携した環境教育・家庭における温暖化対策の推進
 - 専門家の学校派遣による体験型授業の実施 (68件)、節電相談の実施 (45件)、省エネ機器貸出等の実施 (1,398件)、省エネ診断の実施 (130件)
- 電気自動車 (EV) の普及促進
 - EV導入に対する補助 (272件)、6月に「2014年度までに県内3,000台」の目標を達成

② 資源循環の推進

- ・ リサイクル認定製品の普及促進など、3R（発生抑制・再使用・循環的利用）の推進
→ かながわりサイクル製品の認定（認定製品数：27製品）
- ・ リサイクル制度の普及啓発などの推進
→ 有用金属のリサイクルとともに障がい者の社会参加の促進を図る小型家電の回収事業（かながわモデル）を市町村に提案し、第1号として伊勢原市が事業をスタート
→ 公共工事における建設リサイクル資材の率先利用の取組みを推進

③ 適正処理の推進

- ・ 廃棄物処理業者の指導、県立産業廃棄物最終処分場の運営
→ 県立産業廃棄物最終処分場での廃棄物の受入（24,345 t）
- ・ 不法投棄の監視活動や普及啓発、不法投棄された廃棄物の撤去
→ 不法投棄監視パトロール（1,064回）、不法投棄物撤去（880m³）、建設発土監視パトロール（432回）を実施

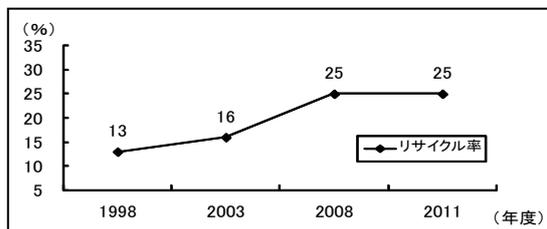
県民ニーズの動向

「地球温暖化対策のため、県民や企業が環境に配慮した取組みを行っていること」を重要だと思う人の割合（県民重要度） ⇒ 80.3%

「環境のことを考えて、ゴミの分別やリサイクルなどを心がけている」と思う人の割合 ⇒ 95.6%
(39項目中1位)

その他社会環境を表す指標

◆ 一般廃棄物（ごみ）におけるリサイクル率の推移（資源循環課調査）



- ・ 2011年度の一般廃棄物におけるリサイクル率は、1998年度に比べると約2倍となっています。
- ・ これは、容器包装リサイクル法による市町村の回収量の増加等によるものです。

主な取組みや統計データに関する情報

- ・ 事業活動温暖化対策計画書制度
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f6674/>
- ・ 建築物温暖化対策計画書制度（CASBEEかながわ）
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f6675/>
- ・ 特定開発事業温暖化対策計画書制度
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f6676/>
- ・ 中小規模事業者省エネルギー対策支援
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f7226/>
- ・ かながわの電気自動車への挑戦
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f4259/>
- ・ 神奈川県循環型社会づくり計画
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f7178/>
- ・ かながわ環境白書—わたしたちの環境—
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f12144/>

総合分析

プロジェクト全体としては、概ね順調に進んでいます。

- ・ 2011年は電力需給逼迫による電力使用抑制などの結果、大規模排出事業者の二酸化炭素排出量は削減されています。また、生活系ごみ一人一日当たりの排出量は低減傾向にあります。前年度との比較では、ほぼ横ばいでした。
- ・ EVの普及は、2012年6月に目標（2014年度までに県内3,000台）を達成しました。
- ・ 不法投棄監視パトロールなどにより、大規模な不法投棄は減少しています。
- ・ NPOなどと連携した環境教育の取組みが着実に進められています。
- ・ ゴミの分別やリサイクルに対する県民の意識は非常に高い状況にあります。

⇒ 数値目標の達成状況は未把握ですが、2011年の生活系ごみの排出量は2012年の目標値を達成しており、また、EVの普及も順調に進むなど、プロジェクトは概ね順調に進んでいます。

今後の課題と対応方向

♪ 誰もが環境に配慮して行動する社会の実現

♪ 地球温暖化対策の推進による温室効果ガスの削減

- ・ 県内の二酸化炭素排出量の過半を占める産業・業務部門、特に大幅に増加している業務部門の温暖化対策の促進が課題
 - 温暖化対策計画書制度の運用に加え、省エネモデル構築事業やガスコージェネレーションシステムとビルなどのエネルギー使用を管理するBEMSの導入補助を開始
- ・ 二酸化炭素排出量が大幅に増加している家庭部門の温暖化対策の促進が課題
 - 家庭の省エネ診断などに引き続き取り組むとともに、住宅のエネルギー使用を管理するHEMS、太陽光発電設備、家庭用燃料電池、蓄電池、電気自動車充電設備の導入補助を開始
- ・ 運輸部門は環境負荷の少ないEV等の一層の普及に向けた取組みが課題
 - EV用急速充電器の自立的普及に向けた有料化への対応促進とともに、国の充電インフラ整備促進事業のための県ビジョンを策定し、インフラ整備を促進

♪ 廃棄物の減少などによる環境負荷の低減と資源の消費抑制

- ・ さらなる廃棄物の発生抑制・再使用・再生利用の取組みや適正処理の推進が課題
 - ペットボトル等の容器包装や小型家電のリサイクルなど、県民に身近な3Rの取組みの普及や廃棄物処理業者への指導、不法投棄の未然防止等の実施

総合計画審議会の二次評価



概ね順調に進んでいます

